



いかずちの子

カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512



http://www.machida-catholic.jp/



母は給仕たちに「何でもこの人の言うとおりにしてください」と言った。

ヨハネ2.5-6

美しい自然に心が和む

主任司祭 アシジの聖フランシスコ 田中 隆弘

祖父、父、叔父の3人から私は小さな頃から盆栽の楽しさを教えてもらって育ってきました。3人でそれぞれの盆栽として鉢植えを庭に合計する

私たちが美しい自然や優れた芸術に接して、心が和む、日常の慌ただしさから免れる、なにか心リフレッシュされる

ですから、その美しい自然やその自然のリズムに則った文化や芸術に触れるときに、私たちが心が和み、そして心が癒される。乱れていた心が整ってくる。そのようなことがあるので、私たちは自然から、優れた芸術から、心がリフレッシュする感覚を得るのではないかと、その哲学者はいつていました。たしかにそれとおりのような気がします。私たちは美しい自然や優れた芸術作品、あるいは文化財(教会建築、聖堂も文化財の一つなのだろう)と思っています

教会に救われた私

アシジのフランシスコ 成田 大樹

私が受洗したのは2年前の4月8日と最近です。しかし、町田教会の存在を知ったのは6年くらい前でしょうか。元々幼少の頃、カトリック幼稚園に通っていた私は、駅と自宅の通り道にあったこの教会の前を通る度に(ああ、ここにもカトリック教会があるのか。あの頃は楽しかったなあ、戻りたいな)などと当時を懐かしんでおりました。その頃、仕事もプライベートもどん底にあった私は、生きる希望を失い、ただ人生を消化しているだけの人間でした。胸の内を話せる相手もなく、これからはと独りぼっちなのか、心の傷をどうやって癒したらいいのか。自分には価値はあるのだろうか。自己破産も経験し、何もかも失い、生活も国にお世話になり、塞ぎこんでおりました。

(はい、どなた?)と返事がありません。私は思い切った(すみません、信者にして下さい)と唐突に言いましたら、(毎週日曜日に御ミサがあるので、そちらに出てみられたらいかがですか)と言われました。今思えば、あの時のお声は林神父様だったと思います。いきなりインターホンで(信者にしてくれ)と聞かれた林神父様もとても困惑されたことと思います。私の中では2年の短い幼稚園の期間カトリックの環境におりましたから、心の隅っこのには自分カトリックの子という意識は大人になってもずっと持っておりましたので、初めて教会に入った時でもイエス様の十字架やマリア様の像、特徴のある椅子には全く違和感はありませんでした。三つ子の魂百までとはこのことだろうと思えます。やっと自分の帰るべき場所に帰って来た、そんな気がいたしました。主の祈りを約50年ぶりに唱えた時、あまりの懐かしさに涙が溢れました。そして、沢山の信者さんとも知り合い、温かく接して頂き、運営委員会でも書記という重要なご奉仕に与り、私は生きる糧を得

ることができました。町田教会に救われたこのご恩はいつまでも忘れることはできません。本当に皆さまありがとうございます。心から感謝しております。

アクション・フォー・ピース

そのルーツと現在の活動

小山 夏比古

「正義が創り出すものは平和」(イザヤ32・17)、「平和を実現する人は幸い」(マタイ5・9)。

アクション・フォー・ピースはこの聖書のことばを基本理念に、正義と平和実現のために活動しています。一九六七年、教皇パウロ六世は教会を社会に開かれたものにするため、全世界の司教協議会に「正義と平和委員会」を設けるように要請しました。日本では一九七〇年、司教協議会の一委員会として発足しました。のちの「日本カトリック正義と平和協議会」です。東京教区では一九九〇年、白柳誠一枢機卿のもとで「カトリック東京正義と平和委員会」が創立されました。町田教会でも一九九一年、同委員会の設立メンバーの一人である大倉一美神父の指導のもと、高嶋たつ江さん(故人)がアクション・フォー・ピースを立ち上げ、現在は活動グルー

プのひとつとして受け継がれています。

最近の活動としては、今年6月16日、「差別」をテーマに横浜教区浜崎眞実神父を招きハンセン病に関わる講演会を開催し、60数名の参加者を得て国によるハンセン病に対する差別の歴史を学びました。講演後、浜崎師を囲んで活発な議論が交わされました。

また8月11日には、平和旬間のイベントとして、三上智恵監督の「沖繩スパイ戦史」を上映しました。この映画は第二次大戦末期の沖繩戦で、日本軍の特務機関・陸軍中野学校が関わった「秘密戦」に迫るドキュメンタリーで、日本軍が作戦遂行のために住民を虐殺するという、知られていなかった史実を聴き取り調査によって明らかにしています。そのタイトルから前評判は芳しくなく、参加者数が心配でしたが、多くの方の協力で40名近くの方々に見ていただくことができました。鑑賞後の茶話会では、「戦争の悲惨さを改めて知った」、「現在の沖繩の状況を危惧する」という声や、憲法9条の大切さを訴える発言もありました。日本のカトリック教会独自の行事である平和旬間の「不戦の誓いを新たにする」という主旨に沿った上映会だった

「被造物を大切に」世界祈願日、メッセージ

被造物(神が造ったもの)とともにあって、希望し行動しよう

科学は人間をあがなってくれません。人間をあがなうのは愛(罪のつぐないをする)

ベネディクト16世

非常にあがない状態にあるのは人間の地上の生活だけではない! キリストにおけるわたしたちの平和の楽園が危機にさらされているのです!

アダムとエバの罪が人間が生きる基盤となる神との関係、自分自身他の人間、そして万物との関係を壊したから。これらの関係はすべて正常化されなくてはならない!

地球

神とは無限というような抽象概念ではない! 愛あふれる御父であり、すべての人の友であがない主、御子で道を行くわたしたちの歩みを導いてくださる聖霊。

地球温暖化の原因は人的なもの!

使徒的勧告「ラウダ・テ・デウム」

気候危機に対する教皇の叫び

「人間は神に代わる存在になろうとすると、自分自身の最悪の敵になるのです」

フランシスコ 教皇 (ルポ池永)

AI(人工知能)の開発に倫理的な制約を!

わたしたちの力はここ数十年のうちに猛烈な勢いで増大! 強烈で圧巻の技術進歩! 同時に多くの生き物の生命とわたしたち自身の生存とを脅かす危険な存在になってしまった。

愛の歌

神

聖性の充満がある

(イエスと似たものになること(聖人)) (満たされる)

と思います。これからも、皆さまの協力のもと、「人間の正義による平和」ではなく、「神の正義による平和」実現のため活動を続けていきたいと考えています。

教会学校〜夏期学校〜

小学五年 鍋木 望愛

わたしは、夏休みに教会学校の夏期学校に参加しました。はじめての夏期学校で、1日目の朝に教会に集まったときからとても楽しみでした。集まってみんなで祈りをしてからバスで御岳山に向かいました。バスの中では歌ったり、おやつを食べたりして楽しく過ごしました。滝本駅に着くとケーブルカーに乗りました。ケーブルカーを降りて少し歩くと嶺雲荘に着きました。持ってきたお弁当を食べながらハイキングに行きました。たくさん山道を歩いて目的地のロックガーデンに着きました。ロックガーデンでは川遊



びをしました。川の水は冷たくて気持ち良かったけど、川底の石はプールと違ってゴツゴツしていました。川から上がっておやつを食べた後、言葉探しゲームをしながら山道を歩いて帰りました。夜ごはんでは、くじ引きで決まった席で食べました。夜ごはんの後はお待ちかねの花火でした。いろいろな花火があつて、どれもきれいでした。キャンドルサーブスでは、みんなで歌を歌ったり踊ったりして面白かったです。夜寝るときは、おしゃべりをしながら寝ました。2日目は、朝起きてからごミサにあずかりました。朝ごはんの後、クイズラリーをしながら長尾平までハイキングをしました。長尾平からは遠くの山までよく見えて景色がよかったです。一度山荘に戻ってお昼ごはんのカレーを食べた後に、大きな木がいつぱいの山道を歩いて下山しました。途中で本物のカモシカを見ることができました。いつぱい歩いたので、帰りのバスの中ではぐっすり眠ってしまいました。夏期学校に参加した、とても楽しかったです。

中高生会〜練成会〜

高校二年 大隈 光

八月十八日、十九日にかけて、中高生会練成会を行いました。中学生から高校生、そしてリーダーが集まり、二日間協力しながら共に過ごしました。

一日目は第二ミサから集まり、夜行うバーベキューの買い出しや、その準備などを行いました。食材準備には全員が積極的に関わり、楽しく会話しながら進めることができました。初めて参加した子ども巻き込んで、皆で忙しく働いている光景を見て、準備の段

階からすでに中高生会の集団としての団結の意識が感じられたと思います。そうして準備し始まったバーベキューは、二日目は皆で早起きをし、富士急ハイランドへ行きまし

た。ジェットコースターが得意な子と苦手な子で途中別行動をしたりしましたが、それぞれがやりたいことをやりつつも皆で乗れる乗り物に乗ったりと、全員が全力で楽しめた一日になったと思います。

バーベキューから富士急ハイランドまで、最高に楽しくそして学びの多い二日間となりました。家族以外の人たち

との共同生活は、慣れないこともあり大変なはずですが、この二日間はトラブルもなく、心から楽しく過ごせました。それは、一人一人が自分のやりたいことを優先する



ワンポイント聖書 温故知新

④

エツファター！―「開け」という意味

一言で治せたはずなのに、なぜ主イエスはあの聾啞の人の場合、耳に指を入れ、舌に唾をつける等(マルコ7:31-37)、手の込んだ治癒をされたのだろうか。そのわけは、神の教えすら聞けない人への憐れみもあつただろうが、おそらくそれ以上に、主の脳裏を原罪の故事がよぎったからではあるまいか。実際、人は人祖以来どれほど耳と口で罪を重ね来たことか！治されたら彼も耳と口で悪を行うかも知れない。だから、主は天を仰いで溜息をつき、聖なる指と唾で彼の耳と舌を清められたのだろう。そして、エツファター！と言われた。「神の業がこの人に現れる」(ヨハネ9:3)ように。でも耳は元々開いていたし、口は開

けられたから、開けとは「聞こえ、かつ話せるようになれ」という意味だった。もちろん彼は癒され、連れて行った人々共々神を称え、感謝した。たぶんその後耳と口で罪を犯さず、御心に応えて生きたいと思う。ちなみにエツファターとはアラム語で、主は律法学者等との議論ではヘブライ語を使われただろうが、ガリラヤ地方では民衆と同じく、普段はアラム語で話しておられたようだ。両言語は関東弁と関西弁みたいな姉妹語だからだ。福音書原典はギリシヤ語だが、主が使ったお言葉そのものではなく、いわば翻訳に他ならない。マルコは他にも、タリタクム(マルコ5:41)等、主が話されたアラム語の貴重なお言葉を残してくれた。これもまた聖書温故知新になるのではなからうか。

余生風 佐藤 正明



のではなく周りの人と協力することを大切にできたからだと思います。皆年齢も違う中、そうやって自分中心にならず人の意見を尊重でき積極的な行動をできる温かい人たちの集まり、それが中高生会なんだと感じられる二日間でした。支えてくれたリーダーたち、そして共に過ごした中高生の皆、楽しい二日間をありがとうございました！

「そこを何とか！」

結城 万紀子

その方は、私が初めて出会った修道女でした。

小学一年生の私たちは、その方の神様のお話が大好きでした。当時、シスター方は髪の毛をベールで覆い、長いスカートの修道服をお召しでした。スカートとベールを翻してシスター・テレーズが歩いて来られると、私たちは廊下で待ち構えてとり囲み、シスターの持つて来られた全紙大の絵を小さな身体で持つてさし上げたり、ついでにベールの中に潜ったりしながら一緒に教室に入って、目を輝かせながら「教え」に聞き入るのです。

ある時、同級生のお母様が交通事故で亡くなりました。シスターは教壇からいつもとはちよつと違う口調で「人

はいつか必ず死にます。あなたも私もいつか必ず死にます。死んだ時に神様が皆さんに、こんな悪い事をしましたね？と質問されても、そこでこんな私では到底、天国に入れません、などと遠慮してはいけません。そこを何とか！とお願いするのですよ」

天国に入るのに遠慮してはいけないなんて、そんな厚かましい話があるのかしら、とずっと心に残っていました。

シスター・テレーズがシスター井上という日本名で呼ばれるようになって初めて、あの有名な井上洋治神父様のお姉様だと知ったのです。

ある時、シスターが「あの人ガラが悪いでしょう？」と言われたのを、先輩が井上神父様に申し上げると「てやんで〜」と返ってきたとか。

あの、たおやかでエレガントなシスター井上からは想像もつかなかったのですが、井上神父様の著書を開くと、そっくりなお写真がありました。

1947年にシスター井上は修道院に入られて、シスター・テレーズ(テレジアはラテン語)と名付けられたのですが、井上神父様は同じ年に東大哲学科に入学、翌年受洗されています。神父様は著書の中で「リジューの小さき花のテレジアは私の人生に決定的

な影響と方向性を与えた人」と書かれています。そのテレジアは「たとえ人の犯しうるあらゆる罪を犯しても、信頼を失わず痛悔に打ち砕かれた心をもって、救い主の腕の中に身を投げるでしょう」と書かれています。

「そこを何とか！」とは、この信頼を意味するのではないのでしょうか。

井上神父様がペトロの家に入られた頃にシスターにお見舞いに「一緒にしませんか？とお誘いしたところ、きつぱり」と「私は大丈夫です」と断られました。強い霊的な絆がおありなのだと感じました。

四谷の修道院にお訪ねすると本当に喜んで下さるので、ある時、あまり名残惜しんで下さるので、私も一緒に修道院の夕の祈りに参列する事にしました。お御堂の最後列に座っていると、お祈りの最中に突然スクッと立ち上がり、最前列の席から私の処にいらして「貴女、こんなに遅くなつて大丈夫なの？」とまるで私がランドセルを背負っている子供のよう

に心配してくれました。私が門を出る頃には誰が来たか忘れてしまわれると伺いました。人はどんなに身体は衰えても、信仰と愛情はいつまでも輝いているのだと思いました。



侍者勉強会

第二ミサ後に侍者勉強会を開催。今井神学生よりミサの流れと侍者の役割についてレクチャーを受けました。

今後はミサの中で、実践を通してステップアップしていくことを目指します。(島田和人)



お知らせ

「雷の子」は年に5回発行され聖堂前ホールに並びますが、教会に来られない方々のために、教会ホームページにも掲載しています(ここではバックナンバーを閲覧することもできません)。さらに、希望される方には郵送もおこなっています。ご希望の方はお名前、ご住所明記のうえ、『カトリック町田教会「雷の子」係』宛てお葉書をください。

信者動静

2024年7月~9月

(個人情報のため、削除しています)